

## 借用証文を読む 解答

史料 1 寛政四年（一七九二）十二月二十八日 借用申金子証文之事

（平川家文書 No. 一五一五）

借用申金子證（証）文之事

一金壹両者<sup>㊦</sup>

通用金也

右者從御地頭様、来ル丑ノ田方先納金被

仰付候得共、出来兼申候ニ付、貴殿江御無心申

金子壹両只今慥ニ請取、御屋敷江御用立<sup>㊦</sup>

申所実正也、然上者返済之所ハ来ル丑田方御

年貢米ニ而元利引渡シ可申候、為後日借用

證（証）文入置申候、仍而如件

寛政四子年

内宿村

十二月廿八日

名主

武兵衛<sup>㊦</sup>

同村

吉兵衛殿

【読み下し】

借用申す金子證（証）文の事

一金壹両者 通用金也

右は御地頭様より、来る丑の田方先納金

仰せ付けられ候得共、出来兼ね申し候に付き、貴殿へ御無心申す

金子壹両只今慥かに請け取り、御屋敷へ御用立

申す所実正也、然る上は返済の所は来る丑田方御

年貢米にて元利引き渡し申すべく候、後日の為借用

證（証）文入れ置き申し候、仍て件の如し

寛政四子年

内宿村

十二月廿八日

名主

武兵衛印

同村

吉兵衛殿

史料2 寛政八年（一七九六）十二月 借用申金子証文之事

（平川家文書 No. 一五二四）

借用申金子證（証） 文之事

一金子五両者 文字金也

右者從御地頭所、来ル巳田方石代金

被仰付候得共、我等方ニ而出来兼申候間、貴殿

江御無心申金子五両借用仕、石代金御上納

申所実正也、然上者返済之義ハ、来ル十一月中

田方御年貢米ニ而元利引取可被下候、万一御

地頭所ニ而相滞義も御座候ハ、村方惣百性

一同割合ヲ以取立、少茂無遅々御勘定可

申候、為後日名主・組頭・百性代借用證（証） 文入

置申候、仍而如件

寛政八辰年 内宿村

十二月日 借用人

名主 武兵衛印

同

組頭 善太夫印

同

百性代 幸八印

同村

吉兵衛殿

【読み下し】

借用申す金子證（証）文の事

一金子五両者<sup>㊦</sup>

文字金也

右は御地頭所より、来る巳田方石代金

仰せ付けられ候得共、我等方にて出来兼ね申し候間、貴殿

へ御無心申す金子五両借用仕り、石代金御上納

申す所実正也、然る上は返済の義は、来る十一月中

田方御年貢米にて元利引き取り下さるべく候、万一御

地頭所にて相滞り義も御座候わば、村方惣百性

一同割合を以て取り立て、少しも遅々無く御勘定

申すべく候、後日の為名主・組頭・百性代借用證（証）文入れ

置き申し候、仍て件の如し

寛政八辰年

内宿村

十二月日

借用人

名主 武兵衛<sup>㊦</sup>

同

組頭 善太夫<sup>㊦</sup>

同

百性代 幸八<sup>㊦</sup>

同村

吉兵衛殿